



## 「自信をもつ」ということ

校長 吉田伸吾

例年の梅雨入りは6月の上旬から中旬にかけてということですので、間もなくここ北本にもうとうとくもあり、作物にとっては恵みの雨でもある梅雨の時期がやってきます。本校でも、この雨を避けるように行事を組むことができれば良いのですが、そうまくはいかないもので、折り合いをつけてプールの学習を始めとする授業やさまざまな行事を行っていくこととなります。

さて、今月の話題ですが、5月は行事も多く、毎日が目まぐるしく流れていく日々でしたが、そんな私たち教員が忙しさを感じている時ほど、子供たちは一気に伸びる時でもあるのです。

まず1つ目は、5月11日(金)に行われた「市内球技大会」でした。6年生は、限られた練習時間の中で、自分たちのために精一杯に動いて声を出し、全力を尽くしていました。そうした練習の過程で、先生たちに度々叱咤激励を受け、その都度、成長していく様子が分かりました。こうして迎えた大会当日、6年生は朝早く学校に集合したときからいつも以上に表情が豊かでした。緊張もあることでしょうが、それ以上に今日という日を本当に楽しみにしていたというのが分かる表情です。当日は見事な結果を残せたのですが、それは相手があつてのこと



ですので、私たち教員が結果以上に心から喜んだことは、本校6年生は一日を通して仲間を思いやりながらも鼓舞し、相手の選手には敬意をはらい、そして何よりもマナー良く過ごせたことです。そして、それらは全て練習を通して、本校教員が教えてきたことだったのです。「やればできるんだ」という自信は、その日だけではなく、その後の生活の中でも十分に生かされていて、今も6年生の態度や表情は今まで以上に豊かになっています。



次に2つ目は、5月15日(火)に行われた「委員会紹介集会」でした。高学年の児童が活動をしていく委員会は、学校生活に快適さ、うるおい、そして元気を与えてくれる存在です。その児童たちが中心になって活動していく委員会を紹介する集会で、各委員会の正副委員長さんは実に立派に壇上で自分たちの委員会のことを紹介してくれました。それはどの委員会もです。全員の前向きな思いをしっかりと感じることができました。同時に進行をした集会委員会の皆さん、そして発表を聞く全校児童の態度も大変立派であったことも加えて、今までで一番しっかりとできた、そして感動した集会でした。

2つの行事を例に挙げましたが、この2つに共通していることは、「成功体験がその後の生活に自信を与える」ということです。「やればできそうだ」という「自信」は、少し難しい言葉では「自己効力感」という言葉に近いと思います。国際的な調査結果では、他国の子供たちに比べて、日本の子供はこの「自己効力感」が低いということが明らかになってきています。これはどういうことでしょうか。今、挙げたような体験をもっともっとさせ、それらをやり遂げさせ、認めることによって、子供たちの中に「自信」や「自己効力感」が育っていくのだと考えると、私たち教員は子供たちにたくさんの体験をさせ、しかも体験させただけでなく、子供たちの頑張りに寄り添って彼らが成功するように支援し、さらにやり遂げたときに認めることが大切なんだと改めて実感した最近の出来事でした。

少し話がそれますが、同じく5月は学校保健に関する検診が多く行われました。午後の時間を使って学校医さんに診ていただきます。先日、ある学校医さんが検診を終えたときに「今、西小はあいさつのキャンペーンをやっているの?」「例年以上に多くの子がしっかりと『お願いします』ってあいさつできていたね」というお話をいただきました。何気ないお話のようですが、その場で私はとてもうれしく思いました。しかし、この話もその場で終わるのではなく、機会を見つけて、直接、本校の子供たち全員に話をし、認めることで、ただの「あいさつができた」ということから、そうすることが「成功体験」なんだということを伝え、子供たちに「自信」をもたせたいと考えています。